



全国大会一般討論

○昨年の大会の追加方針についてどうなっているのか。議論経過を求める。

●安保法制について秋田県議会は与党多数で賛成で可決された。本県に県民の声なのか。6月20日に県弁護士会で安保法案を廃止する集会を開催した。共同アピールや抗議行動が展開された。安保法制は強行採決された。秋田県本では断固反対だ。

○組織強化拡大と分会活動を強化し拡大行動を広く展開してきた。全分会へのオルグの展開、しかし一部の活動になっている。課題について改善していくため交流会の



開催やオルグを実施した。組対会議を開催して具体的な行動を取り組む。

●職場の世論形成、意識調査を実施した。職場の状況など実態についてアンケート調査を他労組も含め取り組んだ。その結果を現場に返して活用していく。他労組との対話をつくっている。アンケート調査を関連会社へも実施していく。非正規の問題など含め調査結果から委託会社、JRへ訴えている。地本の取り組みを明らかにして対話をつなげていく。

NO. 859
発行 2015年 8月29日
国鉄労働組合新潟地方本部
発行責任者 上石 昌彦
編集責任者 教 宣 部



○春闘と3期連続の赤字だが鉄道事業は赤字になっていない。14年連続のペア0になった。四国の体力は年々厳しくなっている。賃金は減額になっている。会社間の体力は違う。各社ごとで要求を設定し闘い方を設定して欲しい。

●安全・安定輸送と車両の部品が落下して車内に飛び込む事故が発生した。三島・貨物の経営状況が厳しいので支援要請を。

○組織拡大と入社前行動を実施した。パンフを受け取ってくれた。職場配属後の関わり方をどう進めていくのか対策会議を開催した。交流会では議論し意思統一を図った。分会、家族も含めて交流会やレクを実施している。他労組へも呼びかけている。組織について将来展望が持てるよう考えていくこと。本部は責任をもって判断し組織で議論していくこと。

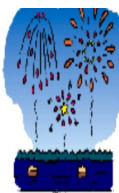
第3回東日本本部杯 ゴルフトーナメント

9月6日(日)~7日(月)
房総カントリークラブ
ゴルフ場



●組織拡大と全支部、全分会担当者会議を開催し意見交換を図った。行動提起が取り組めない。分会間で温度差がある。交流集会を開催し目標達成に向けて意思統一をした。分会オルグを実施した。国労復帰の呼びかけや未加入、女性社員の交流会参加の呼びかけなど意識して行動を実施した。

○駅業務の委託化・委託駅が増加している。直営駅24・委託業務駅34・管理委託駅54。委託社員が増加している。交流会を開催しプロパーからも参加を呼びかけた。職場の問題点が出された。



●常磐線の復旧見込みが具体化された。放射能問題、街の除染は進んでいない。

○戦争法案の廃案、反対する取り組みが展開された。水戸駅前集会、宣伝行動が取り組まれ1200名が結集した。共闘、共同行動で運動を進めていく。

●契約社員で採用され、その後、正社員に採用された。2009年に国労加入した。全国の仲間と交流を深めている。

○組織拡大と国労運動を残していくため青年部の交流会を開催した。職場では青年は一人だが元気が出る交流会にしていきたい。交流会では雇用、賃金について意見が出された。明るい家庭を求めていく。



非正規については厳しい労働環境だ。契約社員は2000名、正社員を指している。ステーションサービスは、その後の雇用先だがさらに厳しい労働環境になっている。国労としても組織化を目指して3名組織化した。国労運動について宣伝し訴えていく。

●今後の組織のあり方について、グループ会社の組織化を考えていかなければならない。新しい発想を考えていく。



大会2日目

○安全問題 福知山線事故から10年が経過した。しかし職場では、合理化や外注化が進んでいる。駅業務では、ひとり業務が増えている。労働強化やサービスの低下がある。触車事故が発生し会社は対策を出したが要員は増やさず設備関係を購入して対応させた。(線路閉鎖では無線機で確認作業など指示)

●7月17日〜18日、台風によって長時間の運転見合わせがあった。JRはダイヤが乱れ他社よりも対応が悪く苦情が多くあった。台風、雨の対策は線路点検や、その要員の対応が問題になっている。事故について対策が進んでいない。会社は利益追求になっている。全国単一組織を生かす闘いを進める。

○JAL闘争支援 キャラバン行動や宣伝行動の取り組みを展開。闘う労働組合つづいだ。国鉄闘争と同様に地方でも解雇問題の闘いがある。



JAL闘争について本部の見解はどうか。
 ●関連労働者の組織化・組織のあり方について、まず国労に加入することが一番だ。そこから労働条件改善を進めていく。JR各社の状況が違っても賃金引上げなど労働条件改善に向けて、家族と共に闘いを進めていかなければならない。



○4月の県議選・国労推薦の山本候補が初当選した。各地域の支援、共闘があった。仲間の奮闘が当選につながった。

●労働法制改悪反対の地域共闘の闘いに国労も積極的に関わっている。

○保線職場に若い社員が配属しているが要員が増えていない。検査業務内容が厳しく労働強化になっている。夜間作業が多い。若い社員が3人辞めた。希望の職種にいけない、展望がなくなったためだ。

●伯備線事故から対策など団交を要求した。安全問題など労働条件改善に向けて統一した取り組みを進める。若い社員の悩みの受け皿にしていきたい。

○春闘討論集会を開催した。JR社員の生活実態を明らかにしていく。ストライキについて学習会を開催した。

●組織のあり方、昨年大会以降1年間、下部討議資料がない。本部へ専門委員会の設置を要請する。

○代議員の発言に対して、ヤジはどうなのか。青年の発言について若い人の声に耳を傾けていくべきだ。発言はきちんと聞くこと。

●若い人と話が出来た。悩みなど、東労組の青年は国労へ相談してくれ。国労加入しても良いのか悩んだ。国労の職場活動を基本に取り組み。若い人たちは国労をどう見ているのか。全組合員参加の組織活動を取り組む。

○組織のあり方、1047名不採用の闘いが終結し組織拡大が最重要課題になっている。そのため専従配置について検討を要請する。組織のあり方について情勢分析が必要だ。組織と運動について本部は示して欲しい。



●福島原発の放射能問題、団交を要求したが会社は政府が安全だと言っていると回答。しかし要求を掲げ提出している。学習会、福島交流会開催で全体が現状について共有していくこと。

○春闘、1月2日付でスト配置を要請した。労働組合の存在を示していくこと。約20年ストが無い。岡山地本は拠点職場を配置して準備した。ストで闘っていることを見せていくべきだ。具体的に春闘での議論はどんな議論だったのか。貨物の状況を考えて欲しい。

●組織の連合体について、三島・貨

物は闘えるのか。単一だから統一した闘いができた。足並みをそろえた指示を。

○組織拡大、23歳の青年が国労加入した。しかし脱退した。国労の魅力に引かれ加入した。出向先会社やJRが一体となった嫌がらせがあった。関連会社の青年の思いを聞いて今後の拡大行動に生かしていく。もっと慎重に取り組みを進める。

●戦争法案・廃案の闘いについて国労はどういう取り組みを進めていくのか。意思統一し連日行動を展開。国労だから実施できる。

○組織のあり方、大会以降1年が経過したが本部からの提起が無かった。地本大会でも意見が出されている。その後、議論していない。

●駅の委託が増えている。本体とグループ会社(5〜6万人)と一体となった業務にしていく。労働条件改善について国労としてどう取り組むのか。関連会社の青年へのアンケート調査から新たな労働組合の発足がある。

○国労は単一として国労運動を進めていくので、グループ会社の運動を進めていくには国労で良いのか。どうなのか考えなければならぬ。全国一社として取り組まれることについて考えていくこと。組合員へ分かりやすい本部の提起を要請する。



●昨年の大会、混乱した経過、誰に責任があるのか。組合員に対して明確な指導を要請する。

○将来の国労について、貨物会社はコスト削減から社員への犠牲、福利厚生への改悪、賃金、手当、ペアO、夏季手当1・36ヶ月など賃金の削減労働強化になっている。会社は鉄道事業の黒字化を進めるためだ。春闘行動では手当の廃止などあり反対の署名を取り組み他労組からも署名が集約され800筆になった。



●組織拡大、貨物労の青年の国労加入が増えている。分会活動の活性化、機関が職場オルグを実施、分会へ指導、要請している。

○国労70周年になるが国労組織、運動の限界だ。このような消極的な運動では信頼できない。国労は、国労らしく70周年にふさわしい国労運動を発展させる。

○JR九州の株式上場について、駅やホーム要員の削減、人件費の切り下げが行われている。ローカル線の廃止、もうかるものだけ財政投資している現状だ。

●戦争法案の廃案を。今年是被爆70年の年だ。



○組織拡大 4月以降4名拡大した。契約社員に対して西労が加入に来た。青年が国労に加入したいと言った。それは駄目だと西労役員が話していた。分会で西労や会社へ不当なやり方をしないよう要請した。西労は職場集会を開催した。その後、契約社員は西労から嫌がらせがあり西労へ加入した。

●関連労働者向けのアンケート調査用紙の配布活動に取り組んだ。対話を進めている。職場の現状を話し合う、労働条件改善をしていくには国労を大きくすることだ。それは職場活動の活性化が必要だ。

○国労はベトナム戦争反対でストライキを決定した。戦争法案に対して今、ストライキに決起する時だ。国労がストを打つことよって全国的な運動に発展していくと思う。

●春闘について各分会でアンケート調査を実施した。職場では統一行動の実施、学習会の開催、駅頭宣伝行動の実施、集会の開催で460名が参加した。各分会では現場長への話し合いを実施し職場の要求改善を図った。

○春闘ストの配置について慎重に判断すべきだと考え本部を支持する。

●組織く職場は東京から大阪まで点在している。組織状況は450名21%がエルダーだ。55歳以上が54%になっている。支部を廃止し分会と地本を直結した。

○組織のあり方々検討委員会の設置を要請する。

●リニア問題く学習会の開催を。安全の確保について具体的に説明を。労働条件や利用者へのサービス低下など3点ある。国労組織全体が意思統一できるものを。



○国労の単一組織の優位性を生かす取り組みを進める。安保法制廃案の取り組みなど。

●春闘ストを中止した理由は？労働使関係からか？貨物は厳しい生活実態だ。ストを配置し要求獲得を。戦術委員会は、なぜストを中止したのか？本部の答弁を。

○組織拡大く関連労働者5名拡大した。全国統一闘争を進め拡大につなげていこう。



●国労の将来について、来年は70周年だ。組織運営が厳しくなっていく。関連会社の労働条件改善していくためどう進めていくのか。組織検討委員会の設置を要請する。

○貨物会社の現状くフレイト21など施策を進めてきた。飛躍は鉄道部門の黒字化を目指している。国交省向けの施策だ。それを達成するためだ。勤務体制の見直し、効率化。貨物会社は12000人で発足したが現在は5700人で一人当たり1千万円の黒字だが、16年連続ベア0、夏季手当1・36ヶ月でJR内で最低の賃金手当になっている。要請行動を展開しているが改善していない。貨物として要求を出す。委託会社の労働条件を改善していかなければならない。

●国労の闘いを継承していく大会にしていくべきだ。

○ストライキを春闘で打てなければ政治ストを決定すべきだ。時代にふさわしい闘いだ。

●地方の闘いくナショナルセンターの役員になっている。反戦の闘いを展開している。

○春闘く16春闘はスト配置を要請す

る。どこを向いて戦術議論をするのか。

●戦争法案を廃案にするための取り組みを強化していく。自民は国会では多数だが国民から不支持だ。反対の闘いは空前の闘いに発展している。労働組合の責務だ。国民的課題として国労も全国大会の総意としていく。

○駅の合理化く駅の遠隔操作の導入。運転取り扱い以外は業務委託になっている。偽装請負が発生している。全国での業務委託の現状や実態を国鉄新聞に宣伝して欲しい。

●駅の遠隔操作導入で、利用者へのサービス低下になっている。そして労働強化になっている。要員の削減無人化を進めている。遠隔操作導入の撤回を要求、駅の要員合理化で労働強化になって働き続けられない現状だ。調査活動を実施し団交へ共闘闘争を進めていくこと。地域社会への影響について訴えていく。



○職業業務が労働強化になってJRからの若年出向者も辞めていく状況だ。プロパー（限定社員）が国労加入した。厳しい労働条件、低賃金などで契約社員が辞めるときに話した（送別会）。「大きな会社は悪い、上の人たちへ要望が伝わらないこの会社は民主主義が無い」と言っていた。

スト権一票投票は、代議員52名中52名全員が○で×は0名でした。スト権が確立されました。

少し長くなりましたが、全代議員の発言内容を不十分ですが記載しました。

執行委員長あいさつや書記長集約については、国鉄新聞を参照してください。

延べ30名の代議員から、組織強化・拡大について多く発言がありました。そして、組織のあり方について、さまざまな意見が出されました。見出しにも記載しましたが「国労の単一組織の優位性を生かし国労運動を継承・発展させていかなければなりません」。

来年、国労は70周年を迎えます。



編集後記

8月も後半、お盆が過ぎると夏も終わりに近づきます。立秋が過ぎて季節は秋ですね。これから夏の疲れが出てきます。御愛顧ください。

(教宣部)